

WEEKLY SIGNAL

2019年9月6日(金) 1490号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	9/9(月)	9/10(火)	9/11(水)	9/12(木)	9/13(金)
無担保O/N			△0.086% ~ 0.001%		
銀行券	+ 1,100	トシ	トシ	トシ	△1,000
財政他	+ 1,300	△5,000	+ 2,000	△25,000	△1,000
資金需給	+ 2,400	△5,000	+ 2,000	△25,000	△2,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M)	国庫短期証券発行・償還(6M)		国債発行(5年) 源泉税揚げ	交付税特会償還・借入
オペ期日	共通担保 △900 CP等買入 △200 社債等買入 △100 補完供給 +100				
オペスタート	共通担保 +500	CP等買入 +4,000			
(日本)	GDP(4-6月期)		景気判断BSI大企業全産業(前期比)(3Q) 景気判断BSI大企業製造業(前期比)(3Q)	国内企業物価指数(前月比)(8月) 日銀営業毎旬報告 (9月10日現在)	鉱工業生産(前年比)(7月) 設備稼働率(前月比)(7月)
(海外)		米 求人件数(7月)	米 PPI(8月) 米 卸売在庫(7月) OPEC月報	OPECプラス会合(WECの一環) 米 2020年大統領選挙に向けた 民主党候補者討論会(ヒューストン) 米 CPI(8月) 米 新規失業保険申請件数 (9月7日終了週) 米 財政収支(8月) 欧 ECB政策金利発表 欧「ドラギ」総裁記者会見	ユーロ圏財務相会合(ユーログループ) 米 輸入物価指数(8月) 米 小売売上高(8月) 米 ミシガン大学消費者マインド指数(9月) 米 企業在庫(7月)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.040 ~ 0.030
SPOT 2M	△0.030 ~ 0.030
SPOT 3M	△0.020 ~ 0.060
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、401兆5,800億円から始まった。4日の税・保険揚げを受けて、396兆円台に減少した。その後は横ばい圏で推移し、396兆1,700億円まで越えた。
無担保コールON物は週を通してビットサイドの調達意欲が弱く、軟調な地合となった。同金利は△0.067~△0.063%の狭いレンジで推移した。
ターム物は、1~2W物で△0.050~△0.040%の出合が見られた。
9月3日に実施された国庫短期証券買入オペのオファー額は2,500億円と、前回オファー分(8月27日、オファー額2,500億円、応札倍率3.30倍)と同額であったが、応札倍率は2.99倍となり、前回対比で低下した。
来週の主な予定はGDP改定値(4-6月)(9日)、海外ではECB政策金利発表、ドラギ総裁記者会見(12日)がある。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.005 ~ 0.000
TDB 3M	△0.180 ~ △0.130
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行総額は約4,200億円で、週間償還額(約4,700億円)を下回った。商社・石油業態等からのまとまった発行もあったが、償還も少なくやや閑散なマーケットであった。発行残高は、8月末(21兆3,414億円)から増加し、5日時点では21兆5,100億円弱となった。発行レートは、引き続きマイナスから0%近辺での横ばい圏内の出合いであった。5日に、CP等買入オペが予定通り4,000億円でオファーされた。結果は、按分レート△0.006%・平均落札レート△0.003%と、前回(按分△0.001%・平均落札0.002%)比で低下した。来週の償還総額(9/9~9/13)は、8,000億円程度となっている。5・10日発行も予定されるが、中間期末を睨んで期日償還が多くなり、今週同様閑散なマーケットと思われる。発行レートは、マイナス~0%近辺での出合いを予想する。11日に、CP等買入オペが4,000億円程度オファーされる予定。9月末の大量償還(約3兆1,000億円)と前回の結果を受けて、按分レートは更に低下すると思われる。

<TDB>

6日の3M855回債入札結果は最高落札利回り△0.1563%(前回債△0.1623%)、平均落札利回り△0.1619%(同△0.1731%)となり、入札後は△0.162%~△0.170%で取引された。セカンダリーでは、3M物が△0.178%~△0.160%のレンジで、6M物が△0.280%程度、1Y物が△0.230%~△0.285%のレンジで出合いが見られた。3日に実施された国庫短期証券買入オペは、2,500億円のオファーに対し、按分レートは+0.010%(前回+0.008%)、平均落札レートは+0.012%(前回+0.009%)となった。

<レポ>

足許GC取引は先週末にレートが深掘りした警戒感から、△0.1%台前半での出合いからスタート。しかし、資金調達意欲は底堅く、週央~後半は△0.10%~△0.08%で推移した。
SC取引は5年140回債が週初から週後半まで△0.10%~△0.09%で取引され、国債買入オペがオファーされた9日受け渡しでは△0.1%台半ばの出合いも見られた。
その他2年402・403・404回債、5年137・138・139回債、10年338・339・340・341・342・343・344・345・346・347・348・349・350・351・352・353・354・355回債、20年164・166・167・168・169回債、30年59・62・63回債、40年9・11・12回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。